

令和7年度 各分掌学校内部評価に係わる評価項目及び達成目標

分野(経営の重点)

- ① 明るく、楽しく、生き生きとした魅力ある学校づくりを推進する。
- ② 確かな学力を身につけさせ、個性の伸長を図る。
- ③ 町内唯一の高校として地域を支え、地域に支えられながら学校文化の発信に努める。
- ④ 教職員としての使命感を持ち、高い専門性と豊かな人間性の修養に努め、協働の精神を養う。

- A:よく達成できた(4.0~3.3)
 B:まずまず達成できた(3.2~2.6)
 C:あまり達成できなかった(2.5~1.9)
 D:達成できなかった(1.8~1.0)

分掌	NO	分野	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	成果	平均	評価	改善の方策	学校関係者評価委員会
総務	1	③	地域・保護者との連携の強化	(ア)学校行事や教育活動を通じて、保護者や地域との交流を図る。 (イ)積極的にHPを更新し、外部への情報の発信を行い、本校への理解と関心を深める。保護者アンケートで80%以上が広報活動を評価するようにする。	(ア)行事における保護者の参加は増加した。地域との交流は、グランドゴルフ大会を通して老人会との交流を図った。 (イ)先生方のご協力でのHPの更新も頻繁に行えた。オープン・ハイスクールの参加者からも高評価をいただいた。今後より興味・関心を持って見ていただけるような工夫が必要である。	3.38	A	・保護者との連絡をより密にするため、「はなまる連絡帳」のより充実した活用を全職員で共有する必要がある。 ・今年度末から次年度2学期まで、講義棟の工事のため、校内整備が必要。特に、行事など保護者に来校してもらうため、駐車スペースの工夫をしていくことが重要。	・地域の方との交流(グラウンドゴルフなど)で、老人会の方々とふれあって、生徒たちも楽しんでいる様子を知っています。
	2	④	危機管理の意識と判断力の向上	(ア)計画的に防災訓練を実施し、避難経路・初期対応や注意事項を確認させる。 (イ)訓練の内容や方法を工夫し、職員・生徒の防災意識を高め、アンケートで災害時、最適な行動を考えている生徒が80%以上いるようにする。	(ア)今年度は、定員増や校舎の整備工事もあり、7月の避難訓練においては、生徒たちに確実に避難経路の確認を行った。その結果、避難時、私語など無く、防災に対する態度も非常に良く、真剣に行動できた。 (イ)この冬は、全国的に山火事など多いため、3月の訓練は、初期消火を中心に実施する予定である。防災に対する意識を継続させる企画を立てている。	3.41	A	・今年度の防災は、校内の工事のため、自校で行ったが、今後は外部団体をうまく組み入れていきたい。 ・校内整備の工事が続くため、工事関係者と不審者を区別できるよう工夫をすることが重要。	・人権学習は大変重要と思います。アンケートでも高い値で、本当に安心していきます。
	3	④	学校全体の人権意識の高揚と一人一人の人権を尊重できる生徒の育成	(ア)各学年の実態に応じたLHRを計画実施する。 (イ)講演会や研修会を実施し人権意識を高めさせる。	(ア)1年は「伝え方」について自分の考えを相手に伝える能力の育成を、2年は「自分の心のクセ」を知ることで、ストレスマネジメントや他者理解の育成の授業を展開。これは、県教委人権教育課の担当指導主事から高い評価得るとともに継続的にできる指導を受けた。 (イ)人権教育講演会を全校生対象に11月に実施。福伸電機の社員による「手話ダンス」の講演を実施した。手話を通してダンスをすることにより、聴覚障害者と触れ合うことで、共生社会について身近な課題として考えるができた。	3.41	A	・生徒の自己理解や人権感覚などの意識向上はもちろんのこと、自己肯定感の育成、身障者などの人権意識について、教員の意識向上を目的とする研修が必要。	
教務	4	②	学習意欲の向上を図る。	(ア)教材の精選と指導方法の工夫に努め、生徒の学習意欲の向上につながる授業改善に取り組む。 (イ)生徒による授業評価を実施し、80%以上の生徒が学習意欲の向上を実感する。 (ウ)効果的な家庭学習の方法を模索する。	・生徒による授業評価では、「授業に熱心に取り組んでいるか」の項目で90.0%(R6より4.1%増)の生徒が「できた、またはどちらかといえばできた」と回答し、また、「授業の内容は理解したか」の項目で81.0%(R6より4.1%増)の生徒が「できた、またはどちらかといえばできた」と回答した。 ・家庭学習については、クラス担任による個人面談等で助言を行った。	3.26	B	・生徒による授業評価の結果だけ見れば、達成度から鑑み、教員の内部評価がAでもおかしくない。このことから、生徒の評価と、教員の設定する達成度との間に乖離があることがわかる。 ・教員の設定する達成度(授業目標等)を明確にし、授業や単元ごとに教員、生徒で共有する取り組みを行う。 ・生徒自身に達成度を確認させるために、振り返りシートの活用を提案する。	・生徒の授業の理解度は良いとはいえ、家庭学習につながっていないことがアンケートよりうかがえます。 ・先生方の工夫・努力に生徒たちは満足しているのかと思います。教育課程が、今の時代の変化に伴うものに、生徒に見合うようにという心がけにありがとうございます。
	5	④	教員の指導力の向上を図る。	(ア)校内研究授業や公開授業などの研修を通じて指導力を高める。 (イ)生徒アンケートで教師が授業を工夫していると評価する生徒が80%を超える。 (ウ)タブレットなどのICTを活用した効果的な指導方法を研修する。	・学期ごとに公開授業や校内研究授業を実施した。自他の授業について振り返り、改善する良い機会が持っている。一般の方の参観は20名程度であった。 ・生徒アンケートでは、「教師が授業を工夫しているか」の項目で86.8%(R6より0.9%増)の生徒が「できた、またはどちらかといえばできた」と評価した。 ・DXハイスクール事業の一環で、情報や探究活動などでAIの利用やICTの活用を行った。今後、何らかの形で、情報共有を行いたい。	3.47	A	・校内研究授業、公開授業週間は引き続き行う。 ・教員の過度の負担とならないよう配慮しながら、意見交換の機会をもつことを提案する。他の教員の授業手法に興味をもってもらうように、積極的に情報の発信に努めていく。	・振り返りシートの活用で、一人ひとりの生徒が、自らの達成度を確認していくことができるようにと願っています。
	6	① ②	魅力的な教育課程を編成する。	(ア)大学入学者選抜実施要項の見直しをふまえて、新学習指導要領による令和4年度以降入学生への進路実現に向けた新教育課程を編成する。また、すべての教員がゆとりを持って、教科指導にあたるように時間割編成を工夫する。 (イ)教科の選択や、評価方法の理解を深めるために、シラバスを効果的に活用する。 (ウ)コース・類型の特色を図るため、教育課程の見直しと改善に取り組む。	・時間割については、様々な制約はあったが、会議の時間を日中にできるように編成することができた。習熟度別や少人数指導などの授業展開もすることができた。 ・次年度の選択科目の参考などにも、効果的にシラバスの活用ができていく。 ・先を見据えてカリキュラムマネジメントに取り組み、選択科目の見直しや、新しい学校設定科目について、検討中である。	3.18	B	・多様な生徒の進路に対応できるようにカリキュラム編成を行う。次々年度選択科目を慎重に検討し、準備する。 ・「総合的な探究の時間」や「ライフ・サイエンスII」の展開について、組織的に計画し、運営する。	
生徒支援	7	④	規範意識・マナーの向上を図る。	(ア)問題行動(いじめ)の早期発見と迅速かつ丁寧で慎重な対応をする。 (イ)ネットトラブルを起こさない、巻き込まれないよう携帯電話やタブレットのインターネット利用時のルールやマナーを守る態度を育成し、情報モラルの向上を目指す。 (ウ)個人ロッカーを設置し、貴重品などの自己管理を徹底させる。 (エ)自転車を中心とした交通安全教育の推進する。 (オ)職員室への入室方法を見直すなど、学校生活の中で規範意識を育む。	・年4回のいじめアンケートを実施し、3回はネットでの回答、1回は記述式の回答方式を行った。いじめ防止や対応の方法等が職員全体に共有できた。 ・5月にネットトラブル講習会を全校生対象に行った。今年度は現役大学生によるトラブルの原因、対処法などの説明で生徒も身近なものと感じることができたと思われる。 ・自転車通学生にヘルメットの着用を推進したが、努力義務のため着用率は約5%程度である。	3.21	B	・引き続きいじめアンケートの内容と実施方法を検討し、改善すべき点はし、いじめの防止につとめ情報共有する機会を増やしていく。 ・携帯電話に関してはペナルティを強化するのではなく、マナー指導、情報リテラシー教育を行いネットトラブルやいじめにつながらないように生徒の意識を向上させる。	・学年だけでなく学校全体で、意識や心構えを高めていけるよう取り組んでください。福崎・播磨福崎高校プライドを持って生活してほしいと思います。 ・全教員で生徒の心に響く指導をし、評価を上げてほしい ・いじめについてのアンケートを年4回、ネットトラブル講習会など、これも人権に係わる大切なことだと思います。
	8	① ③	播磨福崎高校生・福崎高校生としての心構えを確立する。	(ア)自信と誇りが感じられる身だしなみの指導。 (イ)地域に貢献する姿勢と、母校愛の涵養を図る。 (ウ)全職員による生徒とのコミュニケーションの強化する。	・各学期はじめの「服装頭髪検査」を「身だしなみチェック」とし生徒の身だしなみ全般に注意が向けることができた。また、支援部を中心に毎朝校門立番時に服装について気になる生徒には声かけ指導を行った。 ・11月に1年生全員による学校周辺地域での清掃ボランティアを実施した。	2.79	B	・生徒支援部中心に全職員で生徒への声かけを励行し、身だしなみを整えることと、普段からの生徒の変化に気づくように努める。 ・学年間で統一した意識を持つ必要があり、部会等で学年との連携を強化していく。	・身だしなみについては、客観的な意識を高めたいと思いますが、価値観が多様な今、難しい問題と捉えています。 ・項目9が評価Aであることを、うれしく思います。
	9	①	自分を大切に、他者を思いやる生徒の育成を図る。	(ア)あいさつ運動を継続実施する。 (イ)相互理解の態度とさわやかな自己表現力を養成する。 (ウ)不登校の予防と早期発見に努め情報共有を密にする。	・あいさつ運動は昨年に引き続き活発に行われており、特に生徒会執行部と生活委員会による活動として定着している。 ・生徒同士の方が挨拶の声もさわやかで大きく、今後も継続して行っていきたい。	3.38	A	・あいさつ運動は継続し、生徒同士のコミュニケーションの向上や規範意識を高めるようしていく。登校時の生徒の表情などを注意深く観察し、学年との連携をより密にする。 ・みちるべを活用し、生徒にきめ細やかな生徒支援の配慮を行っていく。	

分掌	NO	分野	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	成果	平均	評価	改善の方策	学校関係者評価委員会
進路支援	10	②	主体的に進路をマネジメントする能力を育成するためのシステムを構築し、効果的に運用する。	(ア) 高大接続改革に伴う入試の在り様やスケジュールの変化に基づき、3年間の各時期毎のすべきことのモデルを創り、実行させていく。 (イ) 「みちしるべ」や「高等学校キャリアノート」を利用させつつ、時間管理能力や計画立案能力を高める。 (ウ) やりたいことよりも、自分にできること、社会で求められていることを伸ばす方向での、志望先選択を意識させ、早い時期より、行動させてゆく。	(ア) 時期毎の進路HRや進路講演会等を通して、それぞれの時期に何をしていく必要があるかの確認ができた。 (イ) 「みちしるべ」の点検と、それを利用しての面談が、定期的の実施できている。またキャリアパスポートの記載の蓄積ができた。 (ウ) 将来の夢と志望校とその学校の志望理由の関係について、個別面談や三者面談を繰り返しながらかえていくことで、今自分が学んでいることの意味について深めていくことができた。	3.24	B	・1年1学期の高校に慣れる段階、1年2学期の慣れによる、停滞、退化開始段階を経て、なぜ1年2学期段階でこういう状況になるのか、ということを考えさせた上で、1年3学期当初において、高校生として出直すことの必要性と、そのために必要な、高校で学ぶことの目的や、卒業後の進路実現のために、高校1、2年生の間にどういう事をしておく必要があるかなどについて考えさせ、高校3年当初時点では、受験の準備として、もうできないことがあるということ意識、自覚させていく。 ・2年生に対しては、同時期の3年生がどういうことをする時期になっているのか、を時期毎に示しつつ、1年後の自分がそういう態勢になれるためには、今の時期に何をしておく必要があるのかということ、具体的に考える機会を定期的に設定し、その都度、すべきことの予定を形にさせるとともに、前回考えていた予定と今の状況のずれを意識させてゆく。	・生徒が希望する進路に進める指導をお願いします。 ・3年間という短い時間の中で、各学年で取り組むべきことがたくさんある中、目の前のごとを大切にしながら、3年間の見通しを持って指導していただいていることが、ありがたいです。
	11	④	共通テストや高大接続改革、新教育課程での入試に対応できる指導の充実に向けて、方法や情報の蓄積、共有、協働を図る。	(ア) 高大接続改革が進む中で明らかになってきた、マクロ的、ミクロ的な改革の方向性についての情報を、職員会議や研修会、進路支援通信等の発行を通じて、積極的に発信してゆく。 (イ) 教務と連携しつつ、生徒の学びの状況を分析し、効果的・効率的な学習のさせ方についての議論を深めてゆく。また新教育課程での入試対策についての議論を活発化する。 (ウ) 探究活動が重視される中で、総合型や推薦入試に対応できる基本的な指導方法の共通理解を深めつつ、小論文や志望理由書、面接に対する、より効果的、効率的な指導法についての議論を活発化する。	(ア) 志望理由書について職員研修会を6月に実施し、現状や今後の指導の仕方等についての情報を共有できた。また部会等を通じて、本年度の入試の形態や実態について、きめ細かく発信した。 (イ) 模試結果の分析を通じて、どうい問題があり、どう対応していくか、問題意識を共有している。教育課程委員会では、入試対策を踏まえた望ましい教育課程についての議論を行った。 (ウ) 生成AIを使つての志望理由書の作成に対する大学側の評価状況や今後の使い方、生徒への指導の仕方についての進路研修会を通じて、志望理由書の指導の今後の在り方についての認識を深められた。	3.47	A	・総合型、学校推薦型、一般という入試形態の違いと、その入試を受験し、合格するために必要な準備とそれを始める時期、完成させる時期を、それぞれ毎に整理した上で、1年時から始めなくては間に合わないこと、2年時から始めないと間に合わないこと、3年1学期からでも間に合うこと等を、3年間の時間軸の中で、入試形態毎に時間差別的、並立的に整理、提示していく。 ・時期毎に相応しい準備をすることの必要性をより積極的に意識づけることで、安易な複数の異なる受験形式の選択、指定校入試への依存等の問題を生じさせることを減らしていく。	
	12	③	キャリア教育の一層の充実を図る。	(ア) 看護体験や就業体験等のインターンシップを、低学年時より計画的に実施する。 (イ) 「職種別生き方座談会」等を通じて、職業意識、勤労観を養う。	(ア) 本年度も看護医療体験が実施できた。本年度は2年生の公務員志望者に対する夏休みのインターンシップを実施できた。 (イ) 「職種別生き方座談会」を11月14日に実施し、PTAや卒業生からの話を聞くことで、自分の将来について考えることができた。	3.56	A	・3年間の流れの中で、インターンシップがいつ、どういう形態でできるかを、整理して、生徒に提供するとともに、就職を早期から考えている生徒に対して、進学志望者とは異なる3年間の準備過程のスケジュールを、できるだけ早い段階で提示し、それに従って行動させるようにする。	
保健	13	④	生徒の心身の健康状態を把握し、校内支援体制の充実を図る。	(ア) 定期健康診断の結果の活用及び定期的に「保健だより」を発行することにより、生徒自身の健康への関心を高め、自己管理を促す。 (イ) 相談しやすい環境を整え、キャンパスカウンセラー等と連携を密にし、生徒の実態把握に努め、適切な教育的支援を行う。 (ウ) 合理的配慮や支援を必要とする生徒の特性を理解し、学習や生活の上で支援の工夫を行う。	(ア) 生徒が自身の健康状態に目を向ける機会が増え、体調不良時に早めに相談する姿勢が見られるようになった。 (イ) 生徒の悩みや課題を早期に把握し、学年・関係教職員で連携した支援につなげることができた。 (ウ) 支援により、学習や生活への適応が進んだ生徒も見られたが、支援の継続性や教職員間の共通理解については、なお改善の余地がある。	3.50	A	・生徒一人一人の健康課題に対して継続的かつ組織的な支援を行うため、校内での連携体制をより一層強化する。具体的には、支援が必要な生徒について共通理解を図るための情報共有の在り方を整理し、支援内容や対応方針を統一する。 ・保健だよりやホームルーム活動等を通して、心身の不調に早期に気付き、適切に相談・対処する力を育成し、生徒自身が健康管理に主体的に取り組めるよう指導の充実を図る。	・保健だよりを見て、感染症対策や心のケアについて、改めて気づかされることがあります。 ・生徒の悩み事については、早期発見・早期対応が大切だと思えます。同じ生徒であっても、繰り返しカウンセリングをしていただけた体制に、感謝しています。
	14	④	安全教育を行い、命を尊重する態度を養う。	(ア) 救命救急法(AED)や心肺蘇生法等の講習を、職員・生徒を対象に実施し、緊急対応の普及に努める。	(ア) 実技を交えた講習により、緊急時の対応に関する理解が深まり、いざという場面で行動しようとする意識の向上が見られた。	3.56	A	・講習の継続的な実施に加え、学校生活の中で想定される具体的な場面を取り入れた実践的な訓練を行うとともに、AED設置場所の周知徹底を図ることで、緊急時に適切な対応ができる力の定着を目指す。	・清掃や美化に関しても、もっと意識を持たせたいものです。
	15	①	環境美化意識の向上と適切な学習環境の確立を図る。	(ア) 美化委員によるゴミ当番・クリーナー清掃・学校行事における美化活動を活性化させる。 (イ) 清掃用具の点検、安全点検を行い、生徒自身が学校生活や美化活動に取り組みやすい環境を作る。	(ア) 役割分担を明確にすることで生徒が主体的に美化活動に取り組む姿が見られた。一方で、生徒の取組意識には差も見られた。 (イ) 清掃用具や施設の安全点検を行い、整った環境のもとで清掃活動に取り組むことができた。	3.21	B	・美化活動が快適で安全な学習環境の維持につながっていることを生徒に理解させるため、活動の目的や意義について継続的に指導を行う。 ・役割分担を明確にした活動を継続するとともに、活動の成果を振り返る機会を設けることで、生徒一人一人の達成感や責任感の向上を図る。	
探究推進	16	②	「総合的な探究の時間」の充実を図る。	(ア) 「総合的な探究の時間」を課題の発見と解決に必要な知識・技能・思考力を身につける機会となるようにする。 (イ) 問題解決や探究活動に主体的・共同的に取り組むことができる環境を整える。 (ウ) 来年度以降の探究活動の充実に向け、具体的な準備を進める。	(ア) 探究活動の進め方を学び、実際に行い、発表の機会をもつ。 (イ) 外部講師による講義や講演会・校外研修を実施した。教員・活動班内で進捗を共有できるよう、Teamsを活用した。 (ウ) 行事の精選と日程の見直しを行い、来年度は2学年にわたって行う総合の時間の進め方を考える。	3.41	A	・行事の精選と日程の見直しを行う。1年生は探究活動について学び実践することを、2年生はさらに主体的に探究を進めることを目標とする。 ・校内外での発表の機会を増やす。 ・学校全体で探究活動に取り組めるような環境を整える。	・この探究に関する分野が、評価Aというのは素敵です。探究活動の楽しさが、生徒に伝わることを望みます。生徒の工夫やアイデアを活かしていつてもらいたいです。
	17	③	地域や専門機関との連携・協働により、多様な学びを進める。	(ア) 高大連携等を通して、外部人材の活用や専門的な施設を活用する。 (イ) 来年度以降の探究活動の充実に向け、教員の研修を行う。	(ア) 探究活動についての特別講義を年間を通じて行った。地域の課題を考える契機とするため、町役場や学校医、地域の企業から話を聞く機会を設けた。 (イ) いわゆる「探究活動」を誰が担当しても実施できることを目標とした研修を行った。	3.44	A	・今年度ご協力頂いた方々に加え、多様な分野(特に文系分野)の連携できる外部機関を増やす。教員の研修は、他校への見学など、探究活動についてより具体的なイメージがもてるような内容を取り入れる。	・図書室に限らず、生徒が自由に集まったり、相談できたりする空間があればいいと思います。
	18	①②	図書に関する情報提供を積極的に行い、生徒の読書活動の活性化を図る。	(ア) 適切な図書の収集・情報提供を行う。 (イ) 読書室・学習室として一日平均10名以上の利用を図る。 (ウ) 1・2年の生徒対象に西播地区読書感想文コンクールへの応募を呼びかける。 (エ) 生徒参加型の図書だよりを発行し、全生徒に配布する。 (オ) 図書委員による学級文庫の設置を行う。	(ア) 職員・生徒からのリクエストを含めた図書の購入。貸出者に「正直レビュー」として簡単な感想を書いてもらう(任意)。 (イ) 昼休みの開室を毎日とし、一日8名程度の生徒が入室するようになった。放課後の利用は低調。 (ウ) 昨年度より自由応募。今年度は1名。来年度に向けて校内での表彰を実施。 (エ) 毎月「図書だより」に「図書委員からのおすすめ本」を掲載。 (オ) 各クラスの図書委員が選んだ10冊の本を学級文庫として、設置する。	3.44	A	・夢前高校との統合による図書の増加が見込まれるため、引き続き図書の整理を行う。放課後の学習室としての利用増に向け、机や椅子の入れ替えなど環境整備を行う。	

分掌	NO	分野	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	成果	平均	評価	改善の方策	学校関係者評価委員会
1 学年	19	②	基本的な生活習慣を確立し、基礎学力の定着を図る。	(ア) 気持ち良い挨拶の励行、時間厳守を意識させ、「みちしるべ」に学習時間等を記入することで、時間の有効利用を促す。 (イ) 授業を大切に、予習・復習等の家庭学習を充実させるとともに、小テストや週末課題に目標意識を持たせて計画的に取り組ませる。以上を基本に、家庭学習時間が週平均15時間以上の生徒が70%を超えることを目標とする。 (ウ) タブレットPCを活用し、連絡事項を効率的に伝達し、ペーパーレス化に務める。また、授業での学習効果を高め、教科の特性に合わせた効率のよい学習を行う。	・入学直後のスタートアップ合宿から新しい学校の1年生としての自覚を高めることができた。後期生徒会役員の立候補者でも見られたが、積極的に学校の生活を送ろうとする姿勢がみられるようになった。しかしながら、道しるべなどから学習時間の確保はまだ少ない。 ・タブレットPCは全体連絡や個別連絡、アンケート実施・回収等活用出来ているが、学習面では教科特性によって活用にばらつきがみられる。	3.03	B	・引き続き考査前等の個人面談で個々に応じた指導を行い、道しるべを活用して家庭学習時間の確保させたい。 ・タブレットPC端末の利用を通じて、スムーズな連絡や予定の管理を行い、授業においても配布プリントの削減や保護者との連絡手段としてより活用の場をひろげたい。 ・積極的な学習姿勢として、授業の予習・復習・週末課題をこなすだけでなく、日々の授業が大切であることを理解させたい。	・自らの考えを持った主体的に行動できる生徒の育成に期待します。ルールやマナーを守ることは最低限必要なことです。 ・1学年の評価に緊張感を感じています。播磨福崎高校に期待していますが、3学年ともほぼ同じ目標なのが残念です。学年としての良さ、特徴がもっと知れる目標や評価にしてほしいです。
	20	①	知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。	(ア) 学校行事や部活動への積極的な参加を促し、学校生活の充実を図る。 (イ) 学校生活を通してルールやマナーなどを守る態度を育て、周囲の人に気を配り、助け合いと協力することができる、思いやりのある集団作りを目指す。以上を基本に、充実した学校生活を送れている生徒が85%を超えることを目標とする。 (ウ) 情報モラルを高め、スマホ利用やタブレットPC活用のルールづくりをする。また、生徒同士で注意し合える雰囲気作りをめざす。	・文化祭、体育大会などにも過ごす福崎高校の先輩と協力し、積極的に参加する姿勢がみられた。学校評価アンケートによれば、入学して良かったと答える生徒が89.8%、学校行事に意欲的に参加していると答えた生徒が92.5%となっている。 ・スタートアップ合宿前には、スマホルールを考査して自ら策定したが、実際の学校生活ではスマホをルール外で使用するなどの指導が目立った。	3.26	B	・来年度、中堅学年として学校行事や部活動、生徒会活動の中心となって各活動に積極的に取り組み、自らの考えを持った主体的に行動できる生徒を育成したい。 ・高校生活最大の行事である修学旅行の行先の沖縄の文化や風土を学び、集団生活の規律を守り、自己の役割を果たすことを目指す。先輩と後輩をつなぐ役割を意識したい。	
	21	②	進路意識の高揚を図る。	(ア) 進路LHRIにおける職業調べや学部学科調べを通して、将来の進路について考えさせる。 (イ) 総合的な探究の時間での課題を探究する姿勢は自己の進路とのつながりがあることを意識させる。 (ウ) オープンキャンパスや進路ガイダンスへの積極的な参加を促す。以上を基本に、2年生に進級する時点で、全生徒が進路目標を持ち文理選択を行えるようにする。	・進路HRや総合的な探究の時間をとおして、学校のおかれている地域のことや、将来就きたい職業について考えを深めている。 ・学校評価アンケートによれば、目標や目的意識を持って学校生活を送っているかの質問の解答は、76.3%の生徒がそう思っていると答えている。2・3年生に比べやや低いが、まだ進路に関して具体像が見えないといえる。	3.06	B	・まだ目標が定まっていない生徒がいるため、進路ガイダンスやオープンキャンパスに積極的に参加させて、多様な進路があることをしっかり意識させる。 ・進路実現に向けてどのようなことが自分自身に必要なのか、どのような行動が今後必要なのか考えさせていきたい。 ・模擬試験などの成績を通して自分自身の学力がどの程度か知り、今後の学習の定着を図りたい。	
2 学年	22	②	基本的な生活習慣と計画的な学習習慣を定着させる。	(ア) 時間厳守、タイムマネジメントやスケジュール管理を意識させるために「みちしるべ」の活用を促す。 (イ) 授業を大切に、日々の家庭学習を充実させるとともに、土日の有効活用を意識させる。以上を基本に、家庭学習時間が週平均15時間以上の生徒が60%を超えることを目標とする。 (ウ) タブレットPCを活用し、教科の特性に合わせて効率よく学習を進める。	・保護者のアンケートでは「家庭学習時間が足りているか」という質問に対して、62%が足りていないと答えている。実際には、考査前はある程度の勉強時間の確保ができていないが、学年全体の平均は週10時間程度であり、2割程度の生徒しか目標を達成できていない。継続して学習ができていない生徒とほとんどできていない生徒の二極化が進んでおり、差が大きくなっている。 ・タブレットPCによるアンケート実施、課題配布や回収、生徒連絡等を行い効率よく学習を行える方法を試行錯誤しながら行うことができた。	2.97	B	・引き続き「みちしるべ」の記入を促し、受験に向けてタイムマネジメントを意識させる。個人面談等で個々に応じた指導を行い、家庭学習時間を確保させたい。特に、考査前だけでなく継続して学習時間を確保していけるよう1週間の学習時間を可視化していく。 ・タブレットPCは、引き続き効率よく利用していく。	・2学年の授業中の態度や理解度は高いように思いますが、保護者としては、学年は、学習習慣や家庭学習の状況を把握はできているのかなと思います。生徒はどう感じているのでしょうか。
	23	①	知・徳・体の調和のとれた人間性と主体性豊かな生徒を育成する。	(ア) 学校行事や部活動への、中堅学年としての積極的な参加を促し、学校生活の充実を図る。 (イ) 学校や社会におけるルールやマナーを遵守する態度を育てる。 (ウ) 周囲の人に気を配ることができる、思いやりのある集団作りを目指す。 (エ) 修学旅行等の行事を通じて集団生活の規律を意識し、社会に通用する人間形成を行う。以上を基本に、充実した学校生活を送れている生徒が85%を超えることを目標とする。	・生徒へのアンケートから、「学校行事に意欲的に参加している」と答えた生徒が94%を超えており、中堅学年として学校行事や生徒会活動、部活動において中心となって活躍することができたといえる。 ・学校生活においては、1年次の時と比べるとスマホ等のルール違反が多くみられたのが残念であった。 ・修学旅行では、あらゆる場面で周囲への配慮や思いやりのある行動がみられた。「充実した学校生活を送れているか」という質問に関しては、94%という結果であったため目標達成できた。	3.32	A	・日常生活や学校行事への取り組みの中で、集団での自分の役割や立場を意識させる。また、規範意識をしっかりと持ち、社会のルールやマナーを守れる自律した生徒を育てる。 ・最高学年として自覚を持たせ、学校行事等でリーダーシップをとり卒業後は社会でも通用する人になれるよう指導していく。	
	24	②	進路目標の明確化を図る。	(ア) 個性や適性をとらえながら、自己の進路について、より深く考えさせる。 (イ) タブレットPCを活用し、幅広い情報に基づいた、豊かな人生観・職業観を養い、進路目標を具体化させる。 (ウ) 進路実現に向けて必要な学力を意識させ、模試の結果から自己の特性を分析し、個々に必要な学習に取り組ませる。以上を基本に、修学旅行後は受験生としての自覚を持たせ、進路実現に向けての活動をより具体化させる。	・担任との面談や夏休みのオープンキャンパスを通して、将来の進路について考えを深めた。 ・アンケートで「目標や目的意識を持って学校生活を送れている」と答えた生徒は80%、保護者は83%おり、1年次の時と比べ高くなっている。今後は、より具体的に目標を持ち、模試の結果を活用し成長につながる指導を促す。	3.35	A	・担任との個人面談を大切に、生徒が自らの進路を主体的に選択し、大学受験に挑戦できるように支援していく。 ・補習等も積極的にを行い、個々の学力を伸ばしていく。 ・模試の結果から自己の特性を分析し、成長につながる指導を促す。	
3 学年	25	②	基本的な生活習慣に基づき、家庭学習時間を確保し、自己で管理するとともに計画的・継続的に学習する。	(ア) 各自の進路希望実現のため、家庭学習時間を確保できるようなタイムマネジメントと日々のスケジュール管理を指導する。 (イ) 「みちしるべ」の有効活用して、自ら生活習慣や学習習慣をチェックし、改善しようとする意識を持たせる。 (ウ) 定期考査前には学習計画表を配布し、成果が可視化できるようにする。	・家庭学習の時間に関して、ほとんどの生徒の家庭での学習時間が少ないように感じた。保護者へのアンケート結果でも学習時間が不足していると感じている保護者が多かったため、その点を上手く指導できるとより良かった。 ・定期考査前の学習計画表に関しては可視化して勉強に取り組む生徒が増えた。	3.00	B	・日々の生活の中で成果を可視化する。 ・勉強時間を小学校や会社の成果のように、積み上げグラフの方式で後ろの壁にシールで張る。小テストの結果を公開し、日々の勉強のモチベーションにつなげていく。 ・SNS等の使い方について、日ごろから考える時間を持たせる。	・生徒が進路実現に向けて、緊張していくのが伝わりました。最高学年でもあり、学校行事や日々の課題などもこなしていかなければならない難しさを感じます。先生方の取り組みの様子も伝わってきます。これからも生徒の育成に力を尽くしていただけたらとありがたいです。
	26	①	知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな生徒を育成する。	(ア) 高校生活最後となる各学校行事に、最高学年としての自覚をもって取り組ませる。 (イ) 日常生活や行事への取り組みの中で、集団での自分の役割や立場を意識させ、周りの人への気配りを心がけさせる。 (ウ) 個人の目標に向かって努力しながら、切磋琢磨し、お互いを尊重しあえる集団作りを目指し、他の学年の模範となる。	・2学期からは受験を意識が向き、個々の目標に向かって取り組む生徒が増えた。進路が決まった生徒も意欲的に授業に参加し、自己の学力向上に努めた。 ・学校行事において、ほとんどの生徒が最高学年であることを意識し、最後の学校行事に対して全力で取り組んだ。	3.18	B	・学校生活において、リーダーシップの意識を持たせるように、生徒主体で考えさせる機会を増やす。そのための的確なアドバイスをを行い、導いていく。 ・進路に関しては、早い時期から全国の大学に目をむかせ、調べることで広い目で自分の進路選択が出来るようにする。	

分掌	NO	分野	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	成果	平均	評価	改善の方策	学校関係者評価委員会
3 学 年	27	②	各自の進路希望の実現に向けて、個に応じた丁寧な指導をする。	(ア)新課程と入試改革の中、自分の進路は自分で切り拓くという強い意志を持たせ、進路実現のための道筋を明確化し、目標に向けて努力を継続させる。 (イ)模試受験後は、自己の分析的確に行い、事後の学習の為にフィードバックに努めさせる。 (ウ)個人面談等を丁寧に行い、生徒理解に努め、個に応じた進路が実現できるように指導をする。	・日頃から担任との面談を通して、自分の進路を明確にしてきた。 ・模試の後には、生徒の間違った問題などの解説を速やかに行い、記憶の新しいうちに振り返りを行うことで、基礎基本の定着に努めた。	3.47	A	・共通テストにおいては読む量が増えているので、日ごろから読書などを通して読むということに力を入れていきたい。 ・引き続き担任との面談を密に行い、生徒の進路実現に向けてここに応じて適切な方向に導きたい。	

3.30

学校関係者からの意見、要望。

- ・文理探究科の入学希望者が定員より増えたことを喜んでます。今後も魅力ある学校づくりをお願いします。中学生から選ばれる学校づくりに励んでいただきたいです。
- ・現状で特に問題ないと思います。
- ・学校評議委員会に出席させていただくことで、生徒が高校生活を送れるのは、先生方の努力があってこそだとわかりました。学業、行事、地域との交流など、様々な取組みをしていただいていることに感謝します。学校の魅力は、先生方の人柄やご尽力が要因の1つになっていると思います。働き方や心身のケアに留意して努めていただきたいと思います。毎日ありがとうございます。
- ・学校評議委員会での説明、ビデオなどで生徒の活動の様子がよくわかりました。学校や生徒をよりよくするために、内部評価をすることは大切なことです。今後も目標設定、実践、評価、改善などをよろしくお願いいたします。先生方の努力に頭が下がります。これからもよろしくお願いいたします。